

## インターンシップ体験記 (続き)

## 研究

持ち込んだ研究テーマに取り組みさせていただいた。事前準備であがっていた変更点を加えて予備実験を行い、狙った結果が得られる見込みがたったので本実験を実施した。サンプルは少ないものの、おおむね狙った効果が確認され、学会で発表できないか検討中である。

私は実験システムが認知に及ぼす効果に注目していたが、議論の中でなぜその効果が表れるのかを深く考えるようにご指導いただいた。

## スタッフの方々

自身の視野を広げるためになるべく多くのスタッフの方々と話したいと考え、時間が空いた際には話しかけさせていただいた。バラエティーに富んだバックグラウンドを持った方が多く、非常に興味深い話を伺えた。特にポスドクの方々は異なるフィールドを経験されていたので、企業での活動とアカデミックの研究や様々な最新技術に関する話題が豊富で楽しみながら勉強させていただいた。

## 生活

作業時間をなるべく多く確保するため、宿泊先は勤務先近くのマンスリーマンションを契約した。徒歩5分ほどの物件を見つけられた。食事の大部分は近年注目されている完全食 COMP (コンプ) で賄った。粉を水に溶かすだけで調理する必要がないので料理が苦手な人でも手軽に必要な栄養を摂取できるので非常に重宝した。参加期間中に一度も体調を崩すことはなかった。

## 成長したと思うこと

本インターンシップで注意したのはスケジュールの調整であった。2か月という限られた時間の中でいかに効率よく進めていくかを考えた。スケジュール管理能力や作業スピードについて成長できたと思う。また、現象の仕組みについて議論することの重要性も認識しているが、現象が及ぼす効果に注目しがちな私にそれを改めて確認する機会を与えていただいた。

## インターンシップ体験記 (海外インターンシップの場合は英語で記入)

## 概要

専門研究の合間に取り組んでいた研究テーマを一度集中して進めるために、本インターンシップでは東京大学大学院総合文化広域システム科学系の開研究室で共同研究を行った。8~9月の2か月間をかけて学会で報告できると考えられるレベルの成果をあげることができた。

## インターン先決定の経緯

修士課程の頃から特異な認知現象に関する研究を専門研究と並行して取り組んできた。しばらく思うような結果を出すことができていなかったが、本年度に新たな実験システムを構築してこれの効果を予備実験で確かめたところ、興味深い結果が得られた。より充実した実験を行うために、幅広い認知に関わる研究をされている開研究室にインターンの受け入れをお願いした。自身の所属研究室とかねてより交流があったためスムーズに快諾いただけた。

## 事前準備

研修前の準備として実験システムの調整を行い、実際に予備実験で効果を確認した。実験結果から有用な発見ができると見込みがたてられた。一方で今後の発展を考えたときに必要な変更点があったので、これをインターン先で議論させてもらいたいと考えていた。

## インターン先の特徴

認知機能について多角的に研究されている。スタッフ・学生の裁量に任せて、定期的ミーティングで進捗と問題点を確認しながら課題に対して各々が自身で考え抜くように促す指導をなされていた。また、脳波計測でノイズを遮断するためのシールドルームなど備えており、様々なセンシング技術に関する知見や機材が充実していた(図1)。オンラインで閲覧可能な文献が多く、研究の方針や議論の種を得られる体制が整っていることも印象的であった。



図1: 実験環境